

別府史談会企画研究レポート

『別府の古い道 歴史散歩』 の出版に携わって

別府史談会 特別企画担当

恒松 栖

一 私と別府史談会

昭和六一年の夏だったろうか藤内喜六、安部巖両先生が別府には歴史研究のグループが昔はあったけれど今はない。いろいろな研究をしてもそれをみんなで見合ったり交流したりという機会がない。大分県全体としては地方史研究会というのがあり活動が活発である。別府にもそんな研究会ができるの良いのだがどうだろうというお誘いがあったように思う。

当時私自身は、「大分県地理学会」という研究会があつて大分大学を中心に卒業生が集まり研究報告や大学生の卒業論文発表会などが開かれていたので、歴史へのお誘いにはとまどいもあつたが入会することにした。以来、二〇年間のかか

わりができ、今回は「別府史談会」の役員として活動をする機会に至つたのである。

地理学会では大分県下の様々な自然地理や人文地理にかかわりながら細々と自分の思いを調査研究していた。その過程で『豊後風土記』・『豊国紀行』・『太宰管内誌』・『鶴見七湯廻記』など古い史料や書籍に出合った。それらの中で永い間探しながら場所が特定できていないものがあつた。

そのひとつに豊後風土記の中で「赤湯井泉」という名前が出てくるが、それは今日の「血の池地獄」のことであろうということとは随分前から判っていた。ところが「政部理井湯」が何処なのかということはずーっと不明であつた。それが『鶴見七湯廻記』の存在が明らかになったことで場所が特定できた。このことは探し求めながら発見できなかった歴史上の事実が明らかになった発見であつた。たぶん多くの人たちが鉄輪温泉の「熱の湯」だとか「海地獄」だとかを想定したことと思われる。

二 二〇周年記念事業

今回、別府史談会が二〇周年記念事業として『別府の古い

道 歴史散歩』の出版事業を進めるに当たって、このような新しい発見が幾つもあるのではないかと期待しつつ、この大事な仕事の一翼を精力的に進めてきた。

この事業は 別府史談会発足二〇周年記念事業として別府を通る古い道の調査研究を二年間をかけて行う。研究の成果は次世代への地宝として出版する。誰にも親しみやすく別府の自然や歴史や文化財を散策する手がかりになるものをめざし、平成二二年二月出版予定で進めてきた。執筆項目及び執筆決定を二〇年五月末迄に行つた。

別府史談会の多くの会員が参加・執筆することをめざして役員・事務局員、顧問、会員を中心に幅広く執筆者をつくる。それぞれの専門分野を生かした人選で構成した。内容としては、五章、一九節、一〇〇項目程度にまとめ、A五版一四〇ページでオールカラーとすることにした。

序章として別府を中心に行き交う古い道について全体を概観し、第一章から第三章までに古い道並みにそつて点在・分布する文化・歴史遺産等を解説することにした。第四章には鉄道・海の道・村と村を結ぶ小道を加えることにし、各項目ごとに写真や地図等を配して「見て楽しみ、読んで詳しく知る」という構成とした。ひとり一人の分担がわかりやすく作

業がしやすいように、一項目を基本的に一ページもしくは二ページとすることとした。

三 研究と新しい発見

古い道の編集作業をしている時、かつて天満町の日暮庵にあったといわれている「のうばる道」の道標が別府市立美術館に置かれている。その道標には右の方向（北）に日出・杵築と記され、西の方向にのうばる道と記されている。これはどうも方向があわなひと言われていた。

昔の人が方位を間違えるはずはない。どうしてだろう。このことの説明が手嶋宏治先生の研究で明らかにされた。つまり、「のうばる道」は、日暮れ庵を出発して、鶴見・照湯・明攀・十文字原をとおり、高速道の能原（のうばる）橋の西側の坂道を登る。そして、トラピスト修道院の東側を下り大内ヶ平を通り宇佐市の若林に抜ける。さらに、佐田を通り宇佐に到達する道筋で野原は通らないということが判つた。常にもやもやしていた霧が晴れるごとくに能原という字名まで確認できた。

さぐつてみれば高速道の橋に「のうばる橋」という名称ま

でつかわれていることも明らかになった。歴史上の発見である。さぐってみれば他にも多くの発見があったように思う。今回発刊する本書の各内容は以下のようになっているので活用頂ければ会員一同幸甚である。

四 『別府の古い道 歴史散歩』

構成内容の概要

はじめに

序章 別府をとおる古い道

第一節 豊前道

第二節 豊後永山布政所道

第三節 別府の山間に拓かれた古い支道

第一章 豊前からの古い道

第一節 豊岡の道を歩む

第二節 小坂から古市・平田へ

第三節 平田川から春木川へ

第四節 春木川から境川をわたる

第五節 野口から流川へ

第六節 流川から永石へ

第七節 永石から浜脇・銭瓶峠へ

第八節 特色ある三つの大字

第二章 野口から安心院や塚原への道

第一節 鉄輪から明礬・湯山へ

第二節 十文字原から天間・塚原・玖珠へ

第三章 別府から堀田・由布院へ

第一節 莊園から堀田へ

第二節 堀田から鳥居峠・由布院へ

第三節 浜脇から内成へ

第四章 陸路鉄道・海の道・村と村を結ぶ小道

第一節 別府を通る日豊本線

第二節 別府の海の道

第三節 山手と海辺を結ぶ小道

参考資料一覧

あとがき

別府史談会関係者一覧

文化・歴史遺産分布図・別府市中心部の文化・歴史

遺産分布図・内容項目一覧

五 一二年間の成果の『地宝』

別府をとる古い道の経路図を入れ、その道並みに沿って文化・歴史遺産を取り上げ一つ一つ丁寧に解説した。しかし、紙面に限りがありもし詳細に解説すればより見えやすくなるのではないかという側面と今の研究水準ではこれ以上書けないという側面とが見受けられた。各項目ごとに編纂委員が何回も集まり読み合わせをするなどの過程を経たのであるが、やや専門的過ぎるという声やもつと知らせてほしい秘宝もあるのではないかなどの声も聞かれたが、最大公約的な割り切りで纏め上げたしだいである。時間の区切りは研究の区切りでもあることを肝に銘じて一応の完成を見たところである。

二〇〇名を超える史談会員の協力により『別府の古い道歴史散歩』の完成を見たが、今後現時点での研究成果と捉え、付加修正しながらより確かなものになることを期待したい。また、今回の事業は別府史談会二〇周年記念事業であるが「京都別府ツーリズム支援事業」の助成を受けることができた。期日等の制約は若干あったが、そのことが会員の気持ちをひとつにして取り組むエネルギーとなってくれたことに感謝したい。

たしたい。

会員の方々をはじめ多くの市民に愛される『地宝』としての『別府の古い道 歴史散歩』であることを期待しながら関係者に厚くお礼申し上げるしだいである。

遂に完成!!



別府の古い道 歴史散歩
別府史談会

一人でも多くの人へ、ご案内を
親しみやすく次世代への『地宝』

自然



寺・神社



地図



定価1300円（送料別）
別府史談会会員の総力により執筆。文化・歴史遺産を98項目にまとめる。
A 5版、140P、図版41点、カラー写真157枚、付文化・歴史遺産分布図ほか

●申し込み方法 TEL/FAX 0977-66-0663 恒松まで●